

カトリック六甲教会 教会報

2012

7

No.487



信 頼

主任司祭 松村信也

「今年もまた暑い夏がやってきた！」 そんな言葉をいつまで言い続けることができるのだろうか？と“ふっと”最近、疑心暗鬼になります。3.11以降というと誤解を招くかも知れませんが、今の世の中いつ何時、何が起こるか判らない、否、何が起こっても不思議ではない、そんな時代の中に、私たちは生きているような気がします。

身近な大きい問題の一つである経済不況。“不況、不況”と言われ続けて早20年が経つも、いまだに回復するどころか、ますます水面下へと下降し続けています。隣国中国だけが勝ち組で他は負け組と言われていますが、いつまで続くのか、否、すでに中国も“終わっているよ”と言う噂もあります。

一方、母なる大地に目を向けるとき、地球の異変予報が気になる昨今であります。想定外の竜巻被害と竜巻予報、世界遺産に登録を準備する富士山が、想定される大震災に連動し大爆発を起こすとの予期、オーロラによる異常現象発生の予期など、いつの世も人は、何かの恐れと不安を抱えながら生かされているのでしょうか。

慈愛深い神、人類の救い主であると教えられても、いつまで神は沈黙を守っているのでしょうか。なぜか形容詞だけがレットル言葉のように思われます。

そんな疑い深い人類の為に神は、ご自身の愛の証を御一人子イエスに託されました。イエスの無償の愛、無限の愛、すべてを赦す愛は、私たち一人ひとりに授けられました。御父から聖霊によって送られ、イエスご自身のすべてを私たちのために捧げてくれました。私たち一人ひとりとパーソナルな関わりを結ぶために、無限の愛で証してくれました。その愛、その愛に対する信頼が、今問われているのではないのでしょうか。その愛が、何処へ行ってしまったのかと疑うよりも、その愛を“いつ忘れてしまったのか”、と気づく時ではないのだろうか。

「あなた方がキリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどのものであるかを理解し、人の知恵を遥かに超えたこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてに与り、それによって満たされますように」(1コリ3:18-19)。

この言葉を理解するために、パウロは“愛”について話します。「愛は忍耐強い。愛は情け深い。……自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅ばない」(コリ13:4-8)と。先ず、嘆くことより今こそ“神の愛”をしっかりと心に刻む時なのでしょう。

第2バチカン公会議開催から50年目を迎えた今年、ローマ教皇は“信仰年”と定められました。また我が国にとっては、日本26聖人列聖150周年を迎え、さらにNICEIから25年目を迎える記念の年でもあります。この記念すべき年、戴いた信仰の喜びを共に分かち合い、神への信頼を深め、地の塩、世の光となれますように。アーメン

虐待・性暴力が心に及ぼす影響

片柳 弘史 神父

6月26日から27日の2日間、大阪・梅田のサクラファミリア教会でカトリック大阪大司教区司牧者研修会が行われた。今年のテーマは、欧米で頻発する司祭による児童の性的虐待事件を受けて「虐待・性暴力が心に及ぼす影響」。日本ではまだ発生が報告されていないが、対岸の火事と見過ごすことは到底できない深刻な問題だ。

さまざまな虐待を受けた方々への支援活動を行っているNPO法人「レジリエンス」代表で、大阪教区セクハラ相談窓口のスタッフでもある中島幸子さんが語って下さったことの中で、印象に残ったことを以下に記す。中島さんご自身も、パートナーから深刻な虐待・性暴力を受けた体験を持っておられる。

虐待を加えられているはずの人が加害者をかばう「トラウマティック・ボンディング」と呼ばれる現象、ひどい恐怖を味わったとき、脳の中の海馬と呼ばれる部分が機能しなくなり記憶が残らなくなることなど、講師の中島さんの説明はほとんど初めて聞くことばかりで、自分がどれだけ虐待について無知であったかをまず思い知らされた。虐待を受けた方の話を誤解なく受け止め、司祭に相談したことによってさらに傷口が広がる二次被害を防ぐためには、このような知識を身に着けることから始めるべきだろう。

司祭による性的虐待という以前に、性的な純潔を尊ぶ教会の教えが、性暴力の被害者に罪悪感を持たせることがあるという指摘もあった。「汚れなき乙女」を尊ぶのは教会の大切な伝統だが、その裏側に性的関係は「汚れ」であるという負のメッセージを感じてしまう人がいるのも確かだろう。説教台から、あるいはさまざまな場所で司祭・修道者として教会の教えを説く場合に、そのような人々の心を踏みにじらない配慮が必要だと思う。

逆に、教会にこそ「あなたは大切な人」というメッセージを発してほしいという期待の言葉もあった。虐待を受けた方たちは多くの場合、自分は汚れてしまい、価値がなくなったという思いを抱えている。そのような人たちに、神から限りなく愛された「神の子」としての価値を伝えることは教会の使命に違いない。一司祭にできることには限界があるが、「あなたが大切だ」というメッセージをあらゆる形で発信していくことだろう。例えば虐待を受けた子どもが、自分の描いた絵について「こんないい絵を描く子は、きっと心が美しいのでしょう」という教師の一言で自信を取り戻したということもあるそうだ。

中島さんは、虐待を受けたご自身の心を「まるで核燃料棒を入れられているよう」と表現しておられた。いつも心に水を入れていなければ、核燃料棒がメルトダウンして自分自身が破壊されてしまうという。「虐待によって生きる力の泉が破壊される」ということも言っておられたから、きっと水というのは「生きる力」というような意味なのだろう。教会には、そのような苦しみを抱えた方が「生きる力」の水をくみ上げるのを手伝うことができるのではないだろうか。

最後に中島さんが「皆さんは1時間半の話でも重いと感じられたでしょうが、それを一生抱えて過ごさなければならぬ者もいるのです」とおっしゃった言葉が心に突き刺さった。確かにあまりに重く、向かい合うのを尻込みしたくなるような話だが、「神の愛」をすべての人に伝える使命を与えられたわたしたちが、この現実から目をそらすことがあってはならないと思う。



お知らせ

六甲教会の皆様へ；

私、主任松村は、7月10日から9月10日迄、ミニ・サバティカル（小休暇）を取らせて頂きます。この間、片柳神父に主任代行をお願いしていますが、どうぞ皆様のご協力もよろしくお願いいたします。

二ヶ月間、欧米の教会を巡りありのままの姿を視察して参ります。

この視察が、現在日本の教会の抱える問題の一助に成ればと願っています。

皆様には、二ヶ月間ご不自由をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

主任司祭 松村 信也



「春の黙想会」を終えて

聖霊降臨の祭日を翌日に控えた5月26日（土）、美しい緑に囲まれた六甲学院生徒研修所で黙想会を行いました。参加者は六甲教会内外から60名にも及びました。たくさんの皆さまと静かな祈りの時を持つことができましたことを、心から感謝いたします。次回は11/24（土）に同じ会場で「秋の黙想会」を行う予定です。どうぞふるってご参加ください。

宣教部コーディネーター

宣教部主催 「春の黙想会」に参加して

新緑に包まれた風爽やかな土曜日、宣教部主催の「春の黙想会」に参加させていただきました。

古泉さんによるいつもの「祈りのための心と身体の準備」は、とてもやさしく私たちを祈りに向かわせてくださいました。

コリンズ神父様は講話の中で、「ベテスダの池で長患いの病人が癒されたように、私たちの霊のなかにいつも共にいてくださるイエスによって示される愛に導かれ、“祈りたい心”ですべてを委ね、そしてゆっくり楽しみながら祈りなさい」と述べられました。私はそのお言葉に、ホッと安らぎを感じました。

聖霊の息吹に照らされて、皆さまと共にすごさせていただきました聖なる沈黙の時間でした。

神に感謝。

二宮



小教区評議会年次報告会

冒頭、松村主任司祭から地区会の活動についてのお話があり、その後、蛭田小教区評議会議長から平成23年度の活動概要について報告された。

その後、片柳助任司祭（財務担当）がプロジェクターを使って平成23、24年度の教会会計報告、河野小教区評議会副議長から小教区評議会の各会、各部の平成23年度実績及び平成24年度の予算についての説明があり、承認された。

最後に地区会コーディネータ橋岡さんから平成23年度の地区会としての活動として名簿の整理、連絡網の作成がほぼ完了したとの報告があった。

また各地区会からの報告は以下の通り。

東灘南地区の地区集会

昨年4月六甲教会共同体の新しい地区会がスタートして1年を迎え今年2月に2回目の地区集会を開催しました。私達の地区担当のコリンズ神父様と地区会コーディネーター橋岡様にも参加いただき40名程の大勢の方々に参加いただきました。神父様のお話の後、参加者全員に自己紹介とこの1年を経過して地区会に想う事を自由にお話頂きました。

淡路阪神大震災後自分に大きな変化を受けてしまったと辛い心の内を吐露して頂いた方が複数おられました。ご主人を亡くされ親御さんの介護・面倒で大変、日曜日でも働けないと本心を明かされた方もおられました。また反対に介護などから解放されたのでこれからは教会の奉仕を積極的にやりたいと話された方もおられました。若いカップルからは、大先輩（年寄り）の方から若者に接近して（声かけして）貰えたら有り難いとの嬉しい発言もありました。

私は、皆さんの話を聞かせて頂いていて共同体の新しい地区会がとても良い方向に向かって進みつつあると実感しました。コリンズ神父様のお話の中で、新しい地区会は心の組織であって欲しいし「お互いがお互いに助けや力を借りること」との趣旨の話がありました。「助ける、力を貸す」という能動態ではなくて「助けてもらう、力を借りる」という受動態の姿勢が私達の新しい地区会にとって重要な意味・意義を持つのではないかと感じました。

東灘南地区は“イグナチオ喫茶”のある日に“チョットの集まり”を5月から始めました。15～20名の方々が集まってパイ、クッキー、お寿司、サンドイッチそして美味しいコーヒを頂きながら歓談を楽しんでいます。

東灘南地区 川合

灘南地区と神戸西ブロックとのつながりについて

新しい地区会としての取り組みが始まり、地区内でのつながりも少し活発になってきているような気がします。

先日といっても少し前になりますが、4月29日（日）10時ミサのあと、灘南地区の方々4～5名が地区内を歩いて見る話をされていまして、早速、私も一緒に参加させていただくことになりました。

教会から南に下り、灘南地区を広く景色を眺めながら、阪急の線路沿いを西へ進み、都賀川の河川敷を南に下りました、途中、多くの家族連れの方々がバーベキューなどをされており、素敵なオアシスが身近にあるのを実感しました。

2号線を超えて、阪神の高架を通ると、途中で多くの警察官の方々が辻辻に立たれており、何か事件でもと？思いながら、JR六甲道の南で、皆様と昼食を共にし、ゆっくりお話を伺うことができ、最後は教会に向かう途中で解散となりました。

灘南地区と神戸西ブロックは、一緒に教会行事に協力しあう関係にあり、灘南の皆様、神戸西ブロックの皆様とも、できれば積極的にお話ができればと願っています。

私自身、西ブロックは地域の広さもあり、知らないことばかりなので紹介できないのが残念です、日曜日はほとんど朝7時ミサに与っています、神戸西ブロックの皆様、気軽に声をかけてください、どうぞよろしくお祈りします。
神戸西ブロック 亀田



灘北2地区・阪神ブロック地区会

灘北2地区と阪神ブロックは、昨年から歩み始めた地区会の集いを長らく開けずにおりましたが、6月17日ついに集いを持つことが出来ました。

初めの顧問の片柳神父さまのお話しは、地区会の意義を「まかれた種」を育てる（マタイ）と、周りの人に「種をまく」（マルコ）に譬えてのとてもわかりやすいものでした。

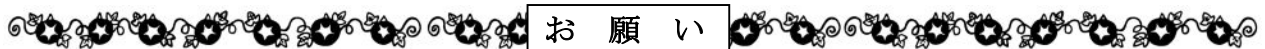
44人の参加者の自己紹介というか、分かち合いは、このご復活に受洗された二つの家族のご挨拶あり、六甲教会草創期の興味深い思い出話あり、連絡網の声だけでの知り合いのお互いの初対面あり、さまざまな遍歴の紹介あり、若い人の決意表明あり・・・という次第で、予定の一時間をあっという間に越えてしまいました。これからも地区会の同胞との交わりを続けて行きたいと思えます。

よろしくお祈りいたします。

灘北2地区 飯塚

今年の復活祭に受洗された方、教会創設当時をご存知の方、転入されて来られた方、新教から改宗された方、暫く教会から離れておられた方、子女のカトリック教育に悩んでおられる方、ご家族の介護や看病で心身共にお疲れの方、受洗されていないご家族のために一生懸命尽くされている方、会社生活を引退し一段落した矢先に大病をされた方、教会からの電話連絡を受けていた人に初めてお目に掛かれた方、仕事の関係でなかなか教会に来られない方、「お祈りの時に、今晚のおかずは何にしよう？と考えている」とさり気無くおっしゃった方、・・・。「蒔かれた『種』が刈り取りの時まで、神様は何時も何処でも働いておられる」ことを確信したひと時でした。

阪神ブロック 小林



★ 節 電 ★

これから猛暑を迎えるに当たり、関西電力から計画停電も踏まえた「節電」の依頼がきております。

当教会においても、下記の点に留意し、再度、節電にご協力お祈りします。

- (1) 冷房温度は27℃に保ち、大きな電力を使用するドライ運転は避けて下さい。
人が居ない部屋の空調は、必ず消しましょう！
- (2) 照明はこまめに消して下さい。

★ 厨房の業務用冷蔵庫の取り扱い ★

- ① 毎月1回フィルターの清掃をして下さい。
担当者を決め、責任を持って清掃をお願いします。尚、フィルター清掃は、冷蔵庫上部の幕板を上を開けられますので、脚立なしでできます。フィルターを水洗い、しっかり拭いてから取付けて下さい。
- ② 自動霜取りの時は、操作パネルの表示が「**dF**」となり、約60分霜取りします。
- ③ **E**で始まる表示が出た時には、事務所に連絡。
- ④ 冷凍食品の解凍を冷蔵庫でする場合、周囲のものが凍ることもあります。ご注意ください。
- ⑤ 調理直後の温度の高い食品を直接入れない。
(必ず室温で冷ましてから入れる)
- ⑥ 教会行事以外で、各部会や個人グループ・クラス等で、開催された集まりやパーティで残った食品類(おかし・食料品・調味料・飲み物)などは、冷蔵庫に入れなくて、責任を持ってお持ち帰り下さい。
- ⑦ 原則、個人及び各グループ単位でのご使用は、前日 or 当日利用をお願いします。
1週間以上の長期ご使用はご遠慮下さい。
(ご使用される場合は、グループ名&氏名等を書いて責任者が必ず分かるようにお願いします。)

《各部だより》

📖 教会学校

7月14日(日) 終業式
 キャンプリーダー研修会
7月28日(土) キャンプ準備会

📖 施設管理部

7月22日(日) 施設管理部部会

📖 典礼部

7月21日(土) 10:00 典礼部会

📖 社会活動部

7月 6日(金) 初金ミサ後
 社会活動部臨時連絡会

📖 地区会

7月22日(日) 地区役員会

《お知らせ》

★ 社会活動部より ★

7月 4日(水) 10:00 手芸の集い(第1・2会議室)
 どなたでも参加できます。
14日(土) 10:00 炊き出し(イグナチオホールお台所)
 小野浜グラウンドへ移動。
 配食や小父さんたちのお話し相手だけでもOKです。
15日(日) 10:00 ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)
19日(木) 14:00 ベタニアの集い
27日(金) 9:00 ともしび(イグナチオホールお台所)



♪ 「社会活動部」からのお願い ♪

- “ふっこうのかけ橋”プロジェクトの中で、8月4日(土)開催の「ふれあい祭り」に出店予定の “宝つり” 用の子供向け景品(文房具・雑貨・本・おもちゃ等)をご寄附下さい。商品は新品でお願いします。
- 大阪教区 engo を通して依頼のあった福島 の 4 つの幼稚園(八沢幼稚園・上真野幼稚園・高平 幼稚園・大壺幼稚園)は、園庭の遊具についた放射能を拭くための使い捨てタオル・シーツ等を必要としています。
7月15日・22日(日)の10時ミサ前後に集めますので、みな様のご協力をお願いします。
- 8月2日(木)～5日(日) “ふっこうのかけ橋”プロジェクトのお手伝い。
8月4日(土) “平和旬間行事への参加” “ふれあい祭り” への出店、“宝つり”のお手伝い。 キャンプでの炊き出しのお手伝い。

■ 壮年会男の料理教室

壮年会男の料理教室では新規にA・B会員を募集します。

- (1) A会員・・・毎月1回(第3水曜日)の教室に参加する会員。
- (2) B会員・・・毎月参加ではなく、希望する月のみ参加する会員。

参加の条件は特に有りません。

老若男女を問わず一度教室の雰囲気を経験したい方・・・歓迎します。

壮年会「男の料理教室」米村



《 図書室からのお知らせ 》 図書室より



4月の購入図書

☆ 典礼と秘蹟のハンドブックⅡ —— 具正謨 教友社

7つの秘蹟の中の5つ〔洗礼・堅信・ゆるし・病者の塗油・結婚〕を取り上げ、神学的問題と歴史的展開を踏まえつつ、理解のためのポイントをわかりやすく解説している。

☆ 典礼と秘蹟のハンドブックⅢ —— 具正謨 教友社

Iのミサや典礼の実践、信心や典礼暦、そして上記Ⅱに続いて『叙階の秘蹟』のすべてを、聖書・古代、中世の教会・・・第二バチカン公会議の二千年間の神学的変遷を含めて詳述し

ている。

☆ 宗教的共生の思想 ——— 宮本久雄 編 教友社

わたしたちが共に生きる今 キリスト教と諸宗教との対話 その実りの秋(とき)。

佐久間勤 宮本久雄 山脇直司 増田祐志 長町裕司 竹内修一 アイダル・アソ 高山貞美

☆ クレド<わたしは信じます> ——— 小高 毅 教友社

キリスト教は何を信じ、何を告白しているのか。信仰の規範「ニケア・コンスタンチノーブル信条」を詳解。

☆ 雨宮慧聖書講話集 I なぜ聖書は奇跡物語を語るのか ——— 雨宮 慧 教友社

福音書が語る奇跡は、「何がどこでどのように起こったという事実」を述べているわけではなく、また無視すべきでもない。ただ出来事の持っている意味を伝えることに福音書の使命がある。

信徒向けの4回の講話を再現。

☆ はじめてのごせいたい

————— ひき きよし 文 はせがわ かこ 絵 オリエンズ宗教研究所

初聖体への案内です。あたたかく楽しく読めます。お勧め。

☆ 現代の荒れ野で ——— 岡田武夫 オリエンズ宗教研究所

すべての人に希望を伝える。信仰を伝える。あなたに神がお願いをしています。

☆ 神への憧れ ——— 佐久間彪 オリエンズ宗教研究所

絵画・作曲・翻訳・童話の創作・・・の佐久間彪神父説教集。神に震えながらひざまづくことに気が付くこと、それが祈りなのです。

☆ 普遍的倫理の探求 ——— 教皇庁国際神学委員会 カトリック中央協議会

人々を一致させ平和と幸福をもたらさうとする客観的価値観は存在するのか。それはどんなものなのか。自然法はすべての善意の人が協力するための基盤となるもの・・・。

.....

他に次のような書籍等を寄贈していただきました。

被災地・大船渡のイーピックス様より

人の子イエス(続々ふるさとのイエス)、走れイエス (DVD 山浦玄嗣講演会)、
ヒタカミ黄金伝説

他の方々より

エヴァの時代(アンネの日記姉妹編)、湯沢台の風景(聖体奉仕会)、
12の祈りの空間(村上晶子)

推薦図書

☆ 科学と宗教と死 ——— 加賀 乙彦 集英社新書

医者であり、作家でありかつカトリックの信仰者である著者が、これまでの人生の中でたどってきた「生と死」についての思索の軌跡を率直に語りつづります。

恐ろしくも「鴻毛よりも軽い」死の受容を覚悟していた十代。犯罪心理学のテーマとして死刑囚の精神医学に取り組んで、また留学中の交通事故。また自身の死生観を変えた死刑囚との出会い。その交流のうちで『聖書』の意味の変化が生まれ、『風』のはたらきの下、夫婦そろっての受洗。

79歳で最愛の妻の突然死に遭い、81歳で自身心停止を経験して、今はペースメーカー

一と共に生きている作者が、『歎異抄』と『放蕩息子』の共通点に気づく。またヒロシマ・ナガサキへの原爆投下を賛美し、市民殺戮のための日本各地への空襲を今なお正当化する教育を継続している合衆国の教育の現状、昨年の大震災と福島原発事故の中で被災者と思う中で、自分が確かに死に近づいているとの自覚を持ちつつ、「原発と原子爆弾のなくなること」を祈る心が書き表されています。

そのほか、科学の力と宗教の力の対比。阪神大震災で精神科医としてボランティアした65歳の時の「行政はつかめなかった現場のニーズ」。芭蕉と荘子の死（の意味?）。原発の報道は大本営発表の再来。祈ることの力の由来・・・

すぐ近くにありまたいつか必ずくる厳かな死を視野に、どう生きるのかを考えるひとつの手がかりとなる1冊だと思います。加賀の小説からみるとかなり短い170頁余の新書本ではありますが、一読をお勧めします。（飯塚）



みんなの広場

ご存知ですか。神戸にも借金を取り消す銀行があります！

銀行という事業は、お金でお金を儲ける“商売”です。どこの国でもその建物は、普通の店よりも大きくて、立派です。最近、経済的に困っているから、またはより強大になるために、合併する銀行もあるようですが、人間がお金を使う限り、銀行も存在するでしょう。

無料で品物を“売る”店がないのと同じように、銀行も無料で金を貸すことをしない。もしある銀行が無料でお金を貸すだけでなく、簡単な手続きで借金さえも取り消すことをすれば、すぐにその窓口の前に前夜から1km以上のお客の列が作られるに違いない。ただ・・・この銀行はすぐ潰れるでしょう。

じつは、2000年前から潰れていない、このような銀行がある。罪の許しの秘跡です。告白するだけという簡単な手続きで、どんな罪でも取り消され許される。窓口は、六甲教会聖堂で後方にあるから目立たないし、お客の1kmの列がないから待たされる心配もない。“営業時間”は各ミサ直前です。無料ですから、どうぞ利用して下さい。（ヨンパルト神父）

以前、広報部に寄せられた、ヨンパルト神様の原稿です。2度目の掲載かと存じますが、訃報の際し、懐かしんでいただければ、と存じます。（広報部）

忘れないで

東日本の被災地より（4）



「馳」という漢字は、漢字の作りのおり「馬（馬車）が走る、走らせる」からきており、そこから「伝わる」「広まる」という意味に派生し、さらに「心を向ける」という意味に転じ、『思いを馳せる』という場合に使われる漢字となっている。

私は今年の3月末に縁あって教会からの東北ボランティアの一行に参加させていただいた。現地で見えた状況は阪神淡路大震災を被災体験した私でさえ衝撃的な光景であり、報道では見えない貴重な体験をした。すでに新聞やテレビの報道も、東北関係のニュースはほとんど見なくなり、時折特集が流れるぐらいである。震災のニュースといえば福島第1原発の話題ばかりであったが、これも大飯原発再稼働問題でややかすれつつある。メディアから受け取る震災関連の情報は時間が経つにつれて数も減っているが、人々の記憶からも、特に震災被害者以外の人々の記憶から薄れつつある。私はこれを批判するつもりはない。阪神淡路大震災の被災体験をした私でさえ、普段の生活を過ごすうちにその自身の体験記憶はどんどん薄れていったものである。

仕方がないことである。そもそも、人の脳には、うれしいことや楽しいことは自然と記憶に残り、悲しいことや辛いことは自然と忘れていこうとする機能があるようだ。うれしい・楽しい思い出は心身の健康を良くし、逆に嫌な思い出を引きずると心身とも健康を悪化させるからであり、意識しなくても脳は自己防衛機能を働かせているわけである。しかし決して忘れてはいけない歴史的災害である。

「みんな東北の被災地に一度は足を向けなさい」「ボランティアに行きなさい」とは言わない。もちろん実際に行って得られることは大きいし多い。時間に余裕がある人はぜひご自身の為に行くことをお勧めする。私がボランティアに行ったのはたまたま縁があり、なにより行く時間があったからだ。誘われなければ行ってなかったであろう。ボランティアに行くと偉そうなことを言えるわけではない。全ての人に現地に行く時間や生活環境があるわけではない。みな日々の生活・経済活動で忙しいからだ。では今我々はどうするべきか？

だから「東北への思いを馳せる」のである。ネガティブな思いではない。「可哀相だ」「大変だ」という思いは何か傍観者的で好きではない。そもそも現地の人たちも、そんな同情の思いは望まないであろう。私の考える「思い」とはもっとポジティブな、もっと建設的な「思い」である。
 ◆買い物をしていたら東北産の物があつた。支援の気持ちも含めて買ってみようかな。◆東北の被災状況を考えれば私の日々の生活環境・周りの人々にもっと感謝しよう。◆東北の人たちが再び立ち上がろうと頑張っている姿をテレビで観て、私も頑張ろう。◆私の防災意識を高めよう。◆自分の子どもたちに話をしてあげよう。

これでいいと思う。自分の生活の中で、自分なりに思いを馳せて小さくてもいいから行動すればそれでいいと思う。思いだけではない。行動を伴ってほしい。一時的ではなく、時々でいいからその思いは持ち続けてほしいと思う。ぜひ皆さんの自分なりの馬を走らせてほしいと思う。

山中

<p>教会報 8月号の発行は、8月4日(日)です。 編集会議 7月29日(日)です。 記事原稿は、7月22日(日)正午までに信徒 会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p style="text-align: center;">カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>発行責任者 松 村 信 也</p> <p>編 集 広 報 部</p>
---	---